

過去問に関する用語解説

1

従属節の従属度とは？

2

試 I - 16 令和3年度 試験 I 問題3

D 【日本語の複文】

文において、述語を一つしか持たない文を単文、二つ以上の述語を持つ文を複文と呼ぶ。複文を構成する従属節の種類には、補足節、名詞修飾節、副詞節、等位・並列節^Aなどが挙げられる。補足節は、名詞と同じような役割を果たす名詞節、引用節、間接疑問^Bとも呼ばれる疑問節に分類される。また、名詞修飾節は、名詞修飾節の述語と被修飾名詞との関係により「内の関係」^Cと「外の関係」に下位分類される。そして副詞節は、条件節、目的節などに分類される。このうち、順接の条件節には「ば」「と」「たら」「なら」という四つの形式が主に用いられるが、(ア)には、主節に命令などの行為要求のモダリティが使えないなどの制約がある。なお、従属節には従属度の高いものから低いものまで階層がある。^D

3

(20) 文章中の下線部Dに関して、最も従属度の低い従属節を、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 田中さんは来るが、山田さんは来ない。
- 2 鈴木さんは、会社に行く前に図書館に寄った。
- 3 子どもたちは、テレビを見ながらご飯を食べている。
- 4 先生がおかしなことを言うので、みんなは笑った。

4

従属度:

⇒ **によって、度合いが変わる**

例) 「付帯状況」を表す「ながら」は、**従属度が高い**

トムがごはんを食べながら、テレビを見ている。

ごはんを 食べ**させ**ながら、仕事をして**いた**らしい。
 食べて**い**ながら、
 食べた**た**ながら、
 食べ**ら**しいながら、

5

従属度が低い例

例1) **彼は**部長に無理やり残業 **が**、
誰もそのことを知らなかった。

例2) 大変な仕事ばかり **から**、
 疲れたのだろう。

6

②0 文章中の下線部Dに関して、最も従属度の低い従属節を、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 田中さんは来る**が**、山田さんは来ない。
- 2 鈴木さんは、会社に行く前に図書館に寄った。
- 3 子どもたちは、テレビを見ながらご飯を食べている。
- 4 先生がおかしなことを言うので、みんなは笑った。

7

「対立がある」とは？

11

令和3年度 試験 I 問題3B

(8) 文章中の下線部C「形容詞」に関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 程度副詞に修飾される。
- 2 アスペクトの対立がある。
- 3 接続助詞が後接しない。
- 4 モダリティ表現が後接しない。

12

・ がある = 自他のペアがある

例) ドアを 開ける ・ ドアが 開く

・ アスペクトの形式には、 がある

例) (これから) 食べる ところです。

(今) 食べている ところです。

⇒

14

令和1年 試験I 問題3D (19) 選択肢2

「モダリティ形式の前にル形とタ形テンス対立を持たない」

例1) 「必要」を表すモダリティの1つ「なくていい」

行くなくていい × ・ 行ったなくていい ×

⇒

例2) 「確信」を表すモダリティの1つ「はずだ」

行くはずだ ○ ・ 行ったはずだ ○

⇒

15

例) あの人は、着物を 着ている。 (存続)

あの人は、着物を 着た。 (過去)

⇒

例) アンナは、着物を 着ている 人です。 (状態)

アンナは、着物を 着た 人です。 (状態)

⇒

16

否定文における スコープとフォーカス

17

<否定文について>

- ・基本的に、 $\frac{1}{2} \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} \frac{d}{dt} \right)$ を表す。

例) 京都に行かなかった。

- ・否定される部分によって、

例) 学生が、50人も[来てい]ない。...

学生が、[50人も来てい]ない。...

⇒解釈は、**文脈やプロミネンス（音声上の強勢）** などによる

18

- ・事態の成立を否定するのではなく、ある部分を否定するときは、「のではない(んじゃない)」を用いる。

例) 遊びで 京都に 行った のではない。

田中さんが 言った のではない。

$$[\quad] \Rightarrow$$

_____ ⇒

19

<否定文以外でのスコープ・フォーカス>

例) 祝日だから、こんなに人が多いのだろう。

推量の形式⇒

「のだろう」の推量の作用が及ぶ範囲は、

$$[\quad] \Rightarrow$$

スコープの中で、特に推量されている部分は、

→

20

R4 【試験Ⅰ】問題3

D 【スコープ】

ある要素が作用を及ぼす範囲を「スコープ（作用域）」と呼ぶ。否定のスコープは、しばしば数量表現との関係で問題にされ、意味的に否定を受ける部分は (ア) と呼ばれる。例えば、「講演会には50人も参加していない。」という文は、「講演会に50人参加していない」という解釈（欠席者50人）と「講演会に参加している人は50人に達していない」という解釈（参加者50人未満）があり得る。

スコープは、否定述部と呼応する副詞の解釈にも用いられる。また、否定述部と呼応は、一部のとりたて助詞にも認められる。加えて、とりたて助詞は、肯定・否定に限らず述部と呼応関係に複雑な制約を持っている。

21

(16) 文章中の (ア) に入れるのに最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 フォーカス
- 2 ストレス
- 3 プロソディー
- 4 プロミネンス

22

(17) 文章中の下線部A「講演会に50人参加していない」という解釈（欠席者50人）において意味的に否定されているのはどれか。最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 「講演会に」
- 2 「50人」
- 3 「参加している」
- 4 「50人も参加している」

24

(18) 文章中の下線部B「否定述部と呼応する副詞」の例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 息子はいまだに働かない。
- 2 あいつはろくに笑わない。
- 3 彼女は本当にしゃべらない。
- 4 私はまだ寝たくない。

26

(19) 文章中の下線部C「一部のとりたて助詞」に関して、否定述部と呼応するとりたて助詞として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 しか
- 2 しか、さえ
- 3 すら
- 4 すら、さえ

28

(20) 文章中の下線部Dに関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 限定を表す「ばかり」は、禁止を表す述部とは共起しにくい。
- 2 評価を表す「なんか」は、否定を表す述部とは共起しにくい。
- 3 極限を表す「まで」は、非過去を表す平叙文の述部とは共起しにくい。
- 4 例示を表す「でも」は、過去を表す平叙文の述部とは共起しにくい。

30

令和5年度 試験Ⅲ

問題4 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

日本語の「のだ」は、「んだ／のです／の」等、様々な形を持っており、疑問文では「のか？／んですか？／の？」となる。「のだ」は、動詞・イ形容詞・ナ形容詞・「名詞＋だ」という四つの述語の (ア) に接続するが、(イ) の「だ」は「な」に変えて接続する。これは、「のだ」の「の」の働きと関わっている。

「のだ」は、機能により二つに分けられる。一つ目は、文が表す事態に対する話し手の判断や聞き手への態度を表す「のだ」である。「のだ」の推量の形式「(ウ)のだらう」は、証拠に基づく推測を表し、「(ウ)のだらう」に言い換えることはできない。二つ目は、否定文や疑問文の焦点を変える「のだ」である。「私は絶対に学校に行かない。」という文と「私は行きたくて学校に行くのではない。」という文の否定の焦点は異なる。このほかにも、指導に際して「のだ」の使い方の様々な特徴を知っておくとよい。

32

問4 文章中の下線部Cで示されている二つの文の「否定の焦点」はどれか。最も適当な組合せを、次の1～4の中から一つ選べ。

	「私は絶対に学校に行かない。」の 否定の焦点	「私は行きたくて学校に行くのではない。」の否定の焦点
--	---------------------------	----------------------------

- | | | |
|---|-----|-------|
| 1 | 絶対に | 行く |
| 2 | 絶対に | 行きたくて |
| 3 | 行く | 学校に |
| 4 | 行く | 行きたくて |

33